

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	・ICTを活用した板書の工夫。(視覚化) ・児童の実態に応じた教材づくり。(個別の配慮)	最 終 評 価	
環境作り		・ソーシャルディスタンスや三密回避を意識させる工夫。 ・学習・生活の規律の徹底。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	学詩や物語に親しみ、意欲的に音読している。主語と述語を含む1～2文を書いたり話したりすることができるが、平仮名の促音や拗音、助詞の表記に慣れていない。学級文庫や図書室の本を楽しんで読む児童が多い。	・助詞（は・を・へ）や促音、拗音の正しい表記に課題がある。 ・文字や文章への関心のない児童への個別指導が必要である。	・言語事項に関わる家庭学習を増やし、繰り返し復習できるようにする。 ・考えの書き方の定型文やポイントを理解させて、繰り返し練習させる。 ・言葉遊びや読み聞かせの活動を取り入れ、楽しく言語に親しめるようにする。		
	算数	学10までの数の数え方や計算の仕方を概ね理解している。計算の仕方を考える力は、個人差が大きい。既習内容を使って問題をつくったり、身の回りにある事象を数理的に考えたりすることに親しんでいる。	・計算の仕方を考えるための手段に課題がある。 ・10までの加減計算の技能に課題がある。	・問題文を音読して、内容の理解を確実にしてから取組むように指導する。 ・具体物を動かして考えるようにする。 ・ICT機器を活用して、技能の習熟を図る。		
2	国語	学詩や物語など音読を通して、楽しんで学習に取り組んでいる。また、作文や感想を書く場面では、自分の伝えたい内容を文章化して表現できる児童が多い。しかし、習得した漢字を使って文章を書いていない。	・既習漢字や助詞の定着に課題がある。	・ミニテストなどを通して既習漢字を繰り返し書く機会を増やす。また、日記やノート指導の時に、既習した漢字を使うよう指導・添削し、定着を図る。		
	算数	学2桁の足し算・引き算では、筆算の仕方を覚え、活用して計算することができるようになった。また、自分の考えをノートに書くことに抵抗なく取り組める児童が多い。しかし、文章問題では、内容を理解できない児童が多い。大きな数の単元では、数の概念の理解に個人差がある。	・1000までの数の概念が理解できていない。 ・文章問題の内容に合った立式に課題がある。	・デジタル教科書を活用し、児童に分かりやすい授業作りをする。ときには、数の大きさが分かるよう位ごとに色分けしたり、数カードを使ったり、具体物を掲示して分かりやすい板書を心がける。 ・文章問題では、立式に必要な数字や言葉に着目させ、立式させるように指導する。また、計算ドリルや東京ベーシック・ドリルなどを活用して繰り返し取り組ませる。		
3	国語	調区の学力定着度調査の結果は、区の平均を下回った。特に、読むことや書くことの正答率が低い。 学語彙が少なく、漢字の誤答や書けない漢字も多い。作文でも、習った漢字を使わずひらがなで書いており、書く量も少ない。	・説明文や物語文の読解の力が弱く、文章の内容を正しく理解できていない様子が見られる。 ・漢字の読み書きに課題がある。作文では、自分の考えを文章に書き表すことが苦手である。	・説明文や物語文の練習問題をやらせるだけでなく、答えの振り返りを大切に、全体で文章を読みとって理解できるようにする。 ・漢字の家庭学習を毎日出す。また、テーマや字数を決めた作文に取り組み、書くことに慣れたり、提示した書き方をもとに、書き方を学んだりできるようにする。		
	算数	調区の学力定着度調査の結果は、区の平均を下回った。特に、かけ算と計算の正答率が低い。 学学習に意欲的で発言も多い。しかし、かけ算九九がまだ定着していない様子も見られ、全体的に計算ミスが目立つ。	・文章問題の立式に課題がある。 ・かけ算の習得と、計算ミスをなくす必要がある。	・東京ベーシックドリルを活用して、文章問題やかけ算九九の問題を積極的に取り組ませ、既習の定着を図る。 ・文章問題は、図などに表して考え方をまとめる力をつける。また、位や繰り上がり、繰り下がり特に意識して計算できるように助言する。		
4	国語	調区の学力定着度調査の結果は、比較的良好だった。しかし単元別で見えていくと、作文、文章読解に個人差が見られる。 学見直しをしない児童や、聞かれたことに対して正しい答え方をしていない児童が目立つ。	・文章の読解力が弱く、理論立てて正解を導いたり、説明をしたりすることに課題がある。 ・解いたことに満足してしまい、見直しをしたり、自分で読み返したりすることがないため、誤字脱字が多い。	・文章を書いたり読んだりすることに苦手意識のある児童が多くみられるので、隔週程度で作文を書くことで、文章の組み立てや理論の展開、漢字等の力を養う。 ・見直しのやり方を指導し、漢字テストなどの小テストから、見直しを徹底するよう働き掛けていく。		
	算数	学区の学力定着度調査の結果は、比較的良好だった。単元別で見えていくと、計算問題で落としている児童が多くみられる。 学検算をしないため、計算間違いに気づかない児童が多くみられる。	・計算問題を解きっぱなしにしている児童が目立つ。 ・検算の仕方や見直しの時のポイントを学習する必要がある。	・早く解けた分、残った時間をすべて見直しに使う意識をもたせ、徹底した見直しを実践していく。 ・すべての単元において、見直しの仕方やポイントを押さえ、検算などを使ってケアレスミス無くしていく。		

5	国語	<p>調 区の学力定着度調査の結果は、区の平均を下回った。課題は、自分の考えを文章にする力を付けていくことである。</p> <p>学 既習漢字の定着に課題も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中から、必要な情報を読み取り、自分の考えをもつことに課題がある。また、自分の考えを文章に表す力を伸ばすことが必要である。 既習漢字の定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」「なか」「おわり」を明確にし、段落ごとに要旨をつかむよう指導する。また、学習感想では、読み取ったことに対する自分の考えを書くことを繰り返していく。 新出漢字や既習漢字の復習、短文作りを繰り返し行い、文章の中で適切な漢字を使う機会をもつ。 		
	算数	<p>調 ・区の学力定着度調査の結果は、図形領域の正答率が区の平均を下回った。</p> <p>学 学習内容の理解、習熟について個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平行の意味など図形概念と作図などの技能に課題がある。 全体の正答率から考えると個人差が見られるので、習熟度に応じた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を用いて視覚でとらえやすくする工夫をしたり、図形の実物に触れたりして、視覚的、体験的に理解できるように指導をしていく。 東京ベーシック・ドリル等を用い、繰り返し問題に取り組み、基礎・基本の確実な定着を目指す。 		
6	国語	<p>調 区の学力定着度調査の結果は、区の平均を下回った。特に漢字の読み書き、作文の正答率が低い。また、個人差が非常に大きい。</p> <p>学 新出漢字の定着に課題が見られる。また、自分の思ったことや考えたことを文章で表現することのできない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。 作文することに慣れたり、「始め・中・終わり」の型を身に付けたりして、書く力を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを活用しながら、正しい漢字の書き取りができるようにする。また、各教科の授業で斉読の機会を設け、様々な文章を正しい読み方で読むことができるようにする。 家庭学習で週末作文を行い、書くことが習慣化できるようにする。また、文章を書く際には、文章構成の型を示してから、児童の考えたことや思ったことを書くよう指導する。 		
	算数	<p>調 区の学力定着度調査の結果は、区の平均を下回った。特に整数のなかま分け、分数のたし算ひき算、体積、合同の正答率が低い。また、個人差が非常に大きい。</p> <p>学 自分の考えたことをノートに表すことはできるが、相手に分かりやすく伝えることは苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下位層について学習内容の習熟を図る必要がある。 相手に分かりやすく伝える力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して、一人ひとりの学習内容の定着度を把握する。 単元や授業の導入場面で前学年までの学習内容を復習してから本時の学習につなげる等、学習の系統性を意識して授業を行う。 互いの考えを比較検討する場面で、共通点や差異点、より効率的な考え等の視点をもたせて話し合い、互いの考えたことを理解しようとさせる。 		
音楽	<p>学 全体的には主体的に学習に取り組んでいる。音楽の諸要素と関連づけて自分の感じたことや気付いたことを伝えることに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年があがるにつれ技能面の個人差が二極化する傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のよさや特徴について感じ取ったり、どのように表現したいか思いをもって表現したりする。 リズムと拍の違いや音程や音の長さといった音楽の諸要素について理解することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素を掲示し、常に意識して見られるようにする。 動画や音源などを活用し、活動への見通しやイメージをもって学習に取り組めるようにする。 学習の視点をしっかり意識させ、他の児童の良い気付きを共有できるようにワークシートや実物投影機の活用、発表の方法を工夫する。 			
図工	<p>学 造形活動に興味を持ち、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。 材料や道具に触れ、ものづくりを楽しむが、つくりながら発想を広げ、深めることが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に対する苦手意識をなくす。 手順通り作る過程で、試す、工夫する等よりよいものにしてと追究する力を培っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を多く積ませる。 実物投影機を活用し、活動途中で他の児童の作品やアイデア等を紹介する。 材料や用具を自分の表現に合わせて「選び・試す」ことができるような時間を確保する等、学習過程に工夫をこらす。 			
特支	<p>学 学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い一方、指先の細かい操作や、情報を処理する力に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生の指示や友達の話聞いて正しく理解することが難しい。グループでの話し合い活動も苦手にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指先の細かい操作や力のコントロールをすることが難しい。 教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに口に出したりせず、他の人の意見を聞いてから、それを受けて自分の主張を述べるができるようになることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた教材を用い、楽しみながら手や指を使うようトレーニングをする。 授業中の話の聞き方や発言のルール「はい。(立つ)へです。」などを全校共通の指導とする。また、月1回の「コグトレドリル」を全学年で実施。聞く、想像するなどを中心とした認知機能を高める指導を行う。 			